



日本プライマリ・ケア連合学会
近畿ブロック支部 活動報告

発行人：外山 学
事務局 〒550-0001 大阪府大阪市西区
土佐堀 1-4-8 日栄ビル 703A
あゆみコーポレーション内
Tel. 06-6441-4918 Fax. 06-6441-2055
E-mail jpca@ayoume.jp
HP square.umin.ac.jp/pc-kinki/

ニュースレター No. 12 (2015. 9)

[会議報告] 近畿ブロック支部代議員会 (6月21日)



外山 学 (益田診療所／大阪府門真市)
新大阪駅近くの会場で、32名の代議員が出席して、支部代議員会が行われました。

(1) 昨年度の事業報告及び決算と監査報告、今年度の事業計画及び予算について、順に協議を行い、いずれも原案通り承認しました。

(*ページ2に続く)

昨年度事業報告

- (1) ニュースレターを4回、学会誌に同封して発行した。(6月、9月、12月、H27年3月)
- (2) 第28回地方会(11月30日、大阪千里阪急ホテル)に際し、補助を行った。
- (3) 府県支部の立ち上げに際して、補助を行った。
- (4) 「地域支部及びグループ活動にする補助の規定」を改訂し、計7件に対して補助を行った。
- (5) 幹事会を開催した。(5月25日)
- (6) 代議員会を2回開催した。(6月22日、11月30日)
- (7) 学会本部との連携、意思疎通に努めた。

今年度事業計画

- (1) ニュースレターを4回、学会誌に同封して発行する。(6月、9月、12月、H28年3月)
- (2) 第29回地方会(11月29日、奈良県社会福祉総合C)の円滑な開催に協力し、補助を行う。
- (3) 各府県での支部(結成準備)活動の支援を行う。
- (4) 「地域支部及びグループ活動にする補助の規定」を必要に応じて改定し、補助を行う。
- (5) 「家庭医療後期研修プログラム責任者会議」ブロック会の支援を行う。
- (6) 幹事会を開催する。(5月31日)
- (7) 代議員会を2回開催する。(6月21日、11月29日)
- (8) 学会本部との連携、意思疎通を更に強化する。

近畿ブロック支部 (KPCA :Kinki Primary Care Association) について

近畿ブロック(滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山の2府4県)に所属する学会会員で構成され、ブロック代議員会を最高議決機関としています。
ブロック支部会費は必要ありません。日常的な運営は幹事会が行っています。



- ・支部長 : 外山学 (学会理事)
- ・副支部長 : 雨森正記 (学会理事)、大島民旗 (学会理事)、戸田和夫
- ・幹事 : 福原俊一 (学会理事)、朝倉健太郎、足立光平、石丸裕康、梶山泰男、木戸友幸、小泉俊三、関透、空地顕一、高木幸夫、武田以知郎、羽野卓三、松井善典、松村理司、水野融、三ツ浪健一、吉本清己
- ・監事 : 大島久明、澤木政光

(2) 武田以知郎幹事から、今年度の近畿地方会について進捗状況の報告が行われ、様々な新しい試みを行っていることが紹介されました(次頁の「地方会準備報告」をご参照下さい)。又、羽野卓三幹事からは、来年度地方会の準備状況について説明がありました。

(3) 中山明子代議員より、2つの企画書『実習&振り返りWSで家庭医・総合医のプロフェッショナルリズムに出会う!』振り返りWS(仮)」「第8回関西家庭医療後期研修医ポートフォリオ発表会」をもとに、若手医師活動の報告がありました。それを受けて、今後の若手活動の支援について、ディスカッションを行いました。既存の補助規定でカバーしきれない場合、地域支部への補助とのバランスも考慮しつつ、若手の自主性の尊重にも配慮して、極力柔軟な対応を行っていくこと、カンパにはできるだけ頼らない方向とすることなどが、話し合われました。又、ポートフォリオ発表会については、周知が不十分との指摘があり、近畿のプログラム責任者会議のMLなどを活用し、広報に力を入れることになりました。

(4) 今年度から書式が新たに設定された、本部への事業報告項目と照合し、1)教育活動:後期研修プログラム会議 ブロック支部会議、及び若手部会との連携、2)研究活動:地域に根ざした研究活動(支援)の充実が、今後の課題であることを確認しました(その意味でも、前項の若手からの発表はたいへん有意義でした)。

(5) 全体会終了後、府県ごとに分かれての会合を持ちました。

(6) 尚、冒頭、丸山泉学会理事長からのメッセージが、梶山泰男幹事により読み上げられました。「細分化した医療に温かい人間性をどう取り戻していくか」「私の目指す学会像は、老壮青が入り混じり、日本のプライマリ・ケアのために互いを尊重し合い、侃侃諤諤の議論が行われる会」「忘れてはならないのは、老壮への青から、老への壮と青からの尊敬と礼節」「健全な継代のあり方がなければ、これから着実に歴史を刻むことは困難」との言葉が印象的でした。

[勉強会報告] 滋賀県家庭医療指導医FD研修会(7月12日)

松井 善典(浅井東診療所/滋賀県長浜市)

滋賀県支部のFD研修会(指導医対象の学集会)を長浜で開催しました。テーマは昨年2月の初回FD研修会でニーズのあった「学習者-指導医関係のAtoZ」です。

『学習者とどの様に関わるのか?』という切り口で、ニーズ評価などの基本的なスキルから、陰性感情や『困難さとうどう付き合うのか?』という複雑な事象についてまで、参加した指導医の経験や持論を共有しました。各指導医から提示された具体的な経験としては「学生のモチベーションの上げ方」「無口で反応が薄い時の指導法」「多忙な指導医への不満への対処」「優秀で挑戦してくる研修医」「多職種との衝突から研修を中断した事例」「コミュニケーションの教え方」「高すぎる研修ニーズをどう現実に落とし込むか」などなど多岐にわたりました。何れの事例も参加者が共感しつつ類似の経験や自らの対応方法を紹介し、いずれも時間が足りないほど盛り上がりました。同時に講師の宮地純一郎先生と宮地由佳先生からは、

困難な学習者についての医学教育的な考え方や視座と繋げるコメントやミニレクチャーがありました。

指導法やスキルがこのように共有され「学習者の事前の情報収集の方法」「様々な関係作りのノウハウ」「守られた場で指導医が経験と悩みを共有する定期的な場作り」「指導医の限界を伝えること」など、滋賀での家庭医養成が一步前に進むためのPearlが抽出されました。



教育事例を題材に医学教育での考え方を共有



【地方会準備報告】 第29回近畿地方会 (11月29日 奈良県社会福祉総合センター：橿原市) のご案内

武田 以知郎(地域医療振興協会 明日香村国民健康保険診療所)

今回の学会では、2025年に向けた地域包括ケアの構築を意識し、多職種連携、協働を強く打ち出しています。実行委員会においても、大学、地域医師会、各職能団体からの参画を得て、地域や現場での課題を取り込めるような工夫を凝らし、様々な出会いと気づきのあ

る企画にチャレンジしています。演題登録においても、従来のような縦割りカテゴリー(看護、リハビリなど)に捉われず、集まった演題内容からキーワードで再分類し、口演セッションのテーマを導き出します。これにより多職種が集まり、あたかもケアカンファレンスのような発表の場となることを期待しています。また演題名につきましても、タイトルから演題内容を類推でき、参加者に理解してもらいやすいようお願いしている

**日本プライマリ・ケア連合学会
第29回近畿地方会**

つなぎ育てる、明日へのケア
～10年後にも輝き続ける地域医療を目指して～

<http://web.apollon.nta.co.jp/primarycare29kinki>



多職種ごちゃまぜカフェ形式の実行委員会風景

ように、学会としてのクオリティを維持しながら、多職種の方々とプライマリ・ケアの方向性を共有できる場になることを期待しています。

ところでは。

さらに現在地域でプライマリ・ケアを実践されている方々の思いやノウハウを、次世代につなぎ育てることも重視したいと考えています。このため学生や若手医師によるセッションなども取り入れたり、シンポジウムにおいても従来の形に捉われず、「そこまで言って委員会」風に自由に発言していただき、どんな展開になるかお楽しみ企画に挑戦してみます。

日本の歴史の原点、橿原の地から新たな歴史を刻める

【勉強会報告】 関西家庭医療ベーシックセミナー2015 (7月19・20日)

竹中 裕昭(竹中医院／大阪府大阪市)

関西家庭医療ベーシックセミナーは、毎年夏に関西を代表する家庭医がボランティアで集い、家庭医療のベーシックスキルを低学年学生やコメディカルのみなさまにわかりやすく伝えようとする試みで、今年で5年目になります。

回を重ねる毎に多職種のみなさまの御参加が増え、今回も医師、医学生の他、訪問看護師、薬剤師、管理栄養士、鍼灸師の方が、関西一円のほか、熊本、山口、広島などから御参加くださいました。

内容も、寸劇が話題になったかぜ症候群の診方、訪問看護指示書の書き方や訪問看護師さんからのメッセージの紹介、紐でつな

がりながら学んだ家族機能、本当に有用な糖尿病の食事指導、非専門医の身体所見トレーニングの到達目標、会場近隣の地域診断、病の経過をつづった日記を利用した死生観体感と看取り実習、そして最も好評だった豚眼を用いた緑内障モデルを中心とした非専門医の眼の診方実習と多岐にわたるものでした。

このセミナーの特徴の一つとして、家庭医療に関連する多職種のみなさまが、ひとつの部屋で同じセミナーに参加することにあります。セミナー終了後、コメディカルスタッフのみなさまは異口同音に、最初は「申し込んでみたものの気が重かった」などと御心配されていたものの、実際に御参加いただいたら『こんなこと聞いたら恥ずかしい』と思わなかった」「医療はチームでやるものだ」と改めて実感させてくれるセミナー」と前向きに御評価くださったのが印象的でした。



【ご案内】地域支部・グループ研究活動に対する補助の公募

(最終改訂：2015. 6. 21)

近畿ブロック支部では、府県単位での地域支部活動や、さまざまなグループ活動を積極的に支援するために、補助を行っています。申請用紙(事務局にご請求下さい)は簡便に作っておりますので、お気軽にご応募下さい。今後も適宜改訂していきますので、より良いしくみにするためのご意見などもお願いいたします。

(1) 補助の要件

- 1) 主催者が日本プライマリ・ケア連合学会(以下、学会)の会員であること
- 2) 近畿ブロック支部の活動の趣旨に沿っていること。ただし、単なる懇親会は補助の対象外とする。

＜参考＞ 日本プライマリ・ケア連合学会 近畿ブロック支部会則

第3条 本会は、近畿ブロックにおけるプライマリ・ケアに関する学術の進歩、知識の普及ならびに人材の育成を図り、プライマリ・ケアの充実および向上に寄与することを目的とする。また、人々が健康な生活を営むことができるように、地域住民とのつながりを大切にした、継続的で包括的な保健・医療・福祉の実践及び学術活動を行うことを目的とする。

- 3) 学会本部や製薬会社など、他の主体からの補助や協賛と重複していないこと。(大学や病院、医師会等の関係団体による支援は可)
- 4) 補助金の振り込みを受けるための銀行口座を有していること(個人名義で可)
- 5) 学会近畿ブロック支部から補助を受けていることについて、案内文書に記載するか当日アナウンスを行うこと。可能であれば、学会への入会勧奨をすることが望ましい。

(2) 申請の手順

- 1) 申請にあたっては、所定の書式に準じた申請書を提出すること。開催前の申請で、その時点で記載及び添付不可能な項目がある場合は、会合終了後に遅滞なく当該事項について提出すること。尚、補助金の使途を明記し、対応する領収書のコピーを添付すること。
- 2) 申請書2枚のうちの1枚は、学会本部へ「専門医・認定医研修講座」又は「認定薬剤師研修講座」の企画書を提出している場合(すなわち専門医・認定医、認定薬剤師の単位を申請している場合)、そのコピーをもって代えることができる。
- 3) 報告の形式は、近畿ブロック支部ニュースレターへの原稿提出とする。(概ね、写真1点+600字、写真が困難な場合は文字のみ 700字) また、交流推進のため地方会での一般演題発表も歓迎する。

(3) 補助額

- 1) 基本活動補助費(同一主催者には年1回のみ)として、学会会員10名未満の会の場合1万円、学会会員10名以上の場合3万円を補助する。
- 2) 会合1回ごとのオプションとして、都道府県など一定地域(あるいは職種等の一定範囲)の全会員に案内を送付する場合、ブロック支部事務局より名簿を提供し、当該府県(職種)分の案内人数分の郵送料(82円/人)を補助する。尚、名簿の提供は、郵送物発送のための必要最低限の形式とし、申請者は「当該勉強会の案内以外の目的で名簿情報を利用しない」旨の文言にサインするものとする。

支部からのご連絡

ブロック支部活動について皆様からのご意見やご提案をお待ちしております！

又、会員の方の関係した講演会等の案内欄を設けております。掲載を希望される方は、1)日時、2)会場、3)講演会名、4)講演会の対象者、5)演題と演者、肩書き(主要なもの1つ)、6)主催者(及び共催者)、7)連絡・問い合わせ先、8)HP(あれば)、9)事前申込の要否、10)参加費用、11)取得可能単位を事務局までご連絡下さい。学会及び支部の精神に則り、会員に役立つ情報提供をよろしくお願いいたします。

学会会員の都府県(支部)の所属は、原則「勤務先」の所在地となっており、ブロック支部事務局に申し出るにより、移動(又は重複)が可能です。学会に登録した連絡先(郵送物が届く住所)以外の府県支部への所属をご希望の方は、近畿ブロック支部事務局まで、ご連絡をお願いいたします。各府県支部からのご連絡が、確実に届くようにするため、差し支えがなければ、連絡先を「勤務先」にする(変更には学会への届出が必要で)す)ことをお勧めいたします。今後の府県支部活動の発展のため、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。